

岩手宮城内陸地震 10 年メモリアル国際シンポジウム・巡検企画

「栗駒山麓の斜面災害・対応策・ジオパーク化」

【趣旨】

本会議の趣旨に則り、発災後 10 年の被災箇所を巡る企画を実施します。

2008 年岩手・宮城内陸地震では、主に震源断層の上盤側のエリアにおいて大小 4000 箇所に及ぶ斜面災害が発生しました。巡検の着眼点は次の 4 つです。第 1 に「斜面災害の実像を確認する」ことです。第 2 に「災害対策工の結果の確認」です。第 3 は「被災を乗り越えようとする地域の現状」です。第 4 に「それらをまとめて人々に伝えることがジオパークの役割」と考えています。

栗駒山麓地域では大きくまとめれば 5 つの地域で大規模且つ集中的な災害が発生しました。それらは、①駒の湯温泉被災（溪流斜面中腹の温泉宿対岸にある地すべりと 5 km 上流から殺到した大規模土石流の複合災害で人的被害と宿の損滅と回復の苦労）、②耕英地区地すべり（地すべりが多発したが家屋・人的な被災は無い。この背景には入植時の崖を背にして家を建てるな、川のそばに家を建てるなどの掟があった）、③冷沢の大規模荒廃（表層崩壊から地すべり・土石流が溪流全域で生じた大規模災害だが、条件に応じたきめ細やかな災害対策が施された）、④荒砥沢地すべり（日本最大規模の破局的な地すべりだが、同時に地震起動型層スベリの実際が細大漏らさず観察できるものとなった）。⑤今回は訪問できない一迫川の中・上流域における溪岸の大規模破壊と土砂ダムの発生です。

巡検の対象とする耕英地区での災害への取り組みは、その前半部で国・県が主体となった災害復旧事業であり、近年は次々とその概成を迎えています。一方、地域では地域再生の姿を具体的にイメージする兆しがあります。駒の湯温泉も苛烈を極めた災禍からようやく立ち直ろうとしています。栗駒山麓の被災地域では其処に関わる人々の様々な工夫が今まに行われており、それは図式的に言えば、行政・人びと・自然・技術が相互に繋がりがあって、耕英地区というまとまりを持つ地域で工夫を重ね、新しい地域のよりどころを創りあげる不断の努力とも言えるでしょう。その工夫の一つに栗駒山麓ジオパークの取り組みがあるのです。「大地の公園」と言われるジオパークですが、私達は「このジオパークは自然災害と折り合いをつけて生きていく日本の典型がある」と意義づけています。

【開催概要】

日 時： 平成 30 年 7 月 7 日(土)

行程(暫定)：

集合 8:00 (JR 東北新幹線くりこま高原駅前) 8:30 出発 ⇒ 行者の滝 ⇒ 駒の湯温泉 ⇒ 耕英地区の斜面災害 ⇒ 冷沢の大規模荒廃地 ⇒ 荒砥沢地すべり地 ⇒ 御沢溪谷 ⇒ くりこま高原駅帰着 解散(15:59 やまびこ 52 号又は 16:57 はやぶさ 106 号に連絡を計画中)

巡検参加費： 3000 円(昼食代、資料代、バス代などを含みます)

その他： ヘルメット、雨具等は各自でご準備下さい。履物は歩き易いもので、スパイクのないものをお願いします。